

令和6年度(第1回) 身近な教育委員会 実施報告

区民が身近に感じる教育委員会の実現に向けて、「身近な教育委員会」を下記のとおり実施しました。

記

・日時 令和6年 5 月 27 日(月) 18 時 30 分～20 時 30 分

・場所 教育支援センター研修室(本庁舎南館6階)

・概要

第一部 第 12 回教育委員会

報告事項「「アフターコロナの学校生活」

第二部 参加者懇談会

○グループディスカッション・発表

内容要旨は次ページ以降のとおりです。

・参加者 60名

内訳 保護者等 36名

教育長・教育委員 5名

教育委員会事務局関係者 19名



身近な教育委員会の様子

・参加者懇談会＜グループディスカッション＞

テーマ： アフターコロナの学校生活(授業・行事)はどのようにあるのがよいか

☆各班からでた意見や考え

- ・4か月もの臨時休業中、給食のありがたさを実感した。
- ・小学校の役割として学力の定着・向上というよりは、人の目にさらされ、集団行動やルールを守るといった役割を期待している。
- ・オンライン化が一気に進んだとともに、PTA 活動は見直しする契機となった。(委員会制度の廃止、希望者がいない活動の休止、サポーター制度への移行)
- ・ICT 活用、オンライン授業の充実、ギガスクールタブレットの活用、ペーパーレス化が進んだと思う。
- ・イベントの目的を問い直す必要があるのではないか。
- ・オンライン授業により、学校に行けない(不登校など)児童も授業参加が可能になった。
- ・タブレット端末の活用は、子どもが詳しくなっていく半面、保護者の管理が難しい。
- ・デジタル化の急速な普及により、保護者や学校の想像以上に子どもの思考が進んでいる事例があり、デジタルタトゥーなどの問題は、早い段階から危険性を伝えていくべきである。
- ・運動会は、短縮され観覧はしやすくなったが、子どもには様々な個人競技や集団競技を経験させて、勝ち負けも含めて、思い出を作って欲しい。
- ・以前の運動会は、早朝から保護者が場所取りをしたりしていたが、コロナ禍を経て、自分の子どもが参加するときだけ前で見える形になっているので、その部分は残して欲しい。
- ・宿泊行事は、小中学生にとっては、とても貴重な経験であり、ワクワク感で眼が輝いている子どもも多くいるので、少しずつ戻しながら継続して欲しい。
- ・宿泊行事は、子ども同士もコミュニケーションが活性化され距離が短縮される機会であるのではないか。
- ・「慣習に従って行動、常識を疑わない」から意見を言いやすくなった。
- ・子どもも大人(保護者・教員)も思考停止しないよう考えて行動する力を、生きる力を養う必要がある。
- ・運動会の簡素化、こういうやり方もあるんだ！と思いいい発見になった。
- ・行事の時間が短縮になり、必要なものに時間を使うことができるようになった。
- ・デジタルの活用が進み、授業配信など助かった。
- ・何かを進める場合、保護者に一度意見を聞いて、進めていけるといいのではないかと(意見を聞くことでできる人がだけで参加することも可能になる)

教育長所感

皆さん、こんばんは

本日の熟議を聞いていて、いいなっていうふうに思っていたのですが、私たちグループではいろいろ出ましたが、その中で PTA の組織が変わったという意見が出ました。

つまり、やりたい人がいなければ、その組織はなくなる。やりたい人たちが集まったところはやる。これは今まで多分有り得なかったことではないでしょうか。

何かそれってすごくすてきなことだなと思いました。コロナ禍前は、そういうものに対して、疑いを持たなかったんですね。もうこれあるべきものだからそこに行くべき、そこに入るべき。でも、何かコロナ禍によっていいんじゃないっていう、その部分が出てきたっていうことは、とてもすてきなことじゃないかなと思いました。

それと関連して、入学式や卒業式といった式典についても述べられました。多分明治以来ずっと変わらずに進んでいた式典が、かなり簡略化されました。でも、子どもたちはしっかりとやっていました。私も何回か出ましたが、皆さんご存知のように、卒業式とか入学式ってものすごい厳しい雰囲気の中でやっていました。

コロナ禍ではそれが全くなかったそうです。先生方が子どもたちにこういう状況だから、こういうふうにはやっていくんだよって言ったらもうそれだけで練習も 1 回か 2 回で済んだそうです。つまり、このコロナ禍によって、今まで当たり前であったことが、ひょっとすると違うんじゃないかなと思いました。

ところが心配なのは、今また逆に戻ろうとしているということです。運動会 1 つとっても、運動会のいいところはたくさんあると思いますけれども、ここはやっぱり変えたほうがいいなと思ったところは、思い切って変えてみる。変えてみて何年かして、もしだめであれば元に戻してみる。変えようとせずに、また元に戻すっていうことについては、私は悔しさをもちます。

皆さんが考えて、知恵を出し合ったことを実際にやってみる。その時、子どもの声を聞いて欲しいです。特に中学生、或いは小学校の 5、6 年生も声を聞きながら、彼らはどう思っているのか。その上で、学校がうまく体制にのっていかばいいかなと思っています。

学校の先生方も、せっかくこういう機会があるわけですから、子どもたちに意見を聞いて、子どもたちと先生、そして保護者・地域と一緒に、作り上げる学校行事、そんなものを期待したらどうかかなと思いました。

今日お話を伺って、やっぱりコロナ禍によって、良い面と、悪い面が出てきたと思うんですが、でもどちらも僕は大切なことだと思いますし、やはりチャレンジをしてもらいたいな、チャレンジをして失敗したら、また戻りましょう。うまくいけば、どんどん行きましょう。何かそのぐらいの思い切ったチャンスが今、訪れてきているのではないかなというふうに思っています。

今日は、これからの板橋の様々な教育活動について、語り合う会ということで本当に参考になりました。

ぜひ、また皆様と学校でお会いして、こんなこと教育長が言っていたよと言っていたいただければ大変うれしいと思います。

本当に今日遅くまでありがとうございました。